



やぐもだい

令和 8 年 1 月 8 日
調布市立八雲台小学校
校長 石川 淳
<https://www.chofu-schools.jp/yagumodai-sho/>

「見えぬものの存在」

校長 石川 淳

新しい年を迎え、皆様、すこやかに過ごしのことと存じます。改めて、保護者、地域の皆様には、本校の教育活動へのご理解とご支援を賜り、心より感謝申し上げます。3 学期は、授業日数 50 日（6 年生は卒業式当日があるので 51 日）となります。一日一日を大切にして教育活動を展開してまいります。

電車を利用していると「リュックは体の前に抱えてご乗車ください」というアナウンスを聞くことがあります。自分の視界にあるものはとても気にするけれど、目に見えてないものは「存在しないもの」という気になってしまうのでしょうか。背中のリュックは自分には見えない場所、見えないならば存在していないと、子どもたちが思ってしまうようになってきていたら気がかりです。テレビや SNS を通してニュースや情報が沢山あり、私たちはそれを見て存在を知ったり、探したり、選んだりしていますが、ともするとニュースや情報に載ってないものを「自分はまだ知らないだけ」ではなく「存在自体しない」と捉えてしまうようになっていくのかも知れません。それでは事象の本質にたどり着けなくなります。

詩人金子みすゞさんの一遍を紹介します。

星とたんぽぽ

金子みすゞ

青いお空の底ふかく、

海の小石のそのやうに、

夜がくるまで沈んでる、

昼のお星は眼に見えぬ。

見えぬけれどもあるんだよ、

見えぬものでもあるんだよ。

散つてすがれたたんぽぽの、

瓦のすきに、だアまつて、

春のくるまでかくれてる、

つよいその根は眼に見えぬ。

見えぬけれどもあるんだよ、

見えぬものでもあるんだよ。

1・2 学期を過ごす中で、子どもたち一人一人の生活ではそれぞれに、うまくいかないこと、悔しい思いをすることもあっただろうと思います。その時周囲の助けを借りながらも、どう自分をコントロールし、乗り越えてきたかが重要です。うまくいかないことにも、乗り越える過程にも見えていない・聞こえていない様々な要素があるものです。原因を想像し、乗り越えるために、見えなくてもそこにあるものを考え合わせながら前向きに切り替えていくことが成長なのだと思います。見えぬものの存在を認め、どのようなものかを想像できる心、それを教育目標にある思いやりのある子どもを育てることにつなげていく、そのような学校でありたいと考えています。